

令和5年度 第1回大崎市陸羽東線利活用促進検討会議 会議録

1 開催日時 令和5年8月23日(水) 午後1時30分～午後3時10分

2 開催場所 大崎市本庁舎4階 災害対策本部室

3 出席者 下記名簿のとおり

No.	役職	氏名	備考	出欠
1	副市長	吉田 祐幸	会長	○
2	副市長	目黒 嗣樹	副会長	○
3	市民協働推進部長	伊藤 文子	幹事長	○
4	総務部長	赤間 幸人	幹事	○
5	民生部長	渋谷 勝	幹事	○
6	産業経済部長	寺田 洋一	幹事	○ 代理
7	建設部長	茂泉 善明	幹事	○
8	教育部長	三浦 利之	幹事	○
9	病院経営管理部長	中田 健一	幹事	○ 代理
10	岩出山総合支所長	佐々木 昭	幹事	○
11	鳴子総合支所長	伊藤 正幸	幹事	×
12	東北運輸局鉄道部計画課長	小幡 真樹子	幹事	○
13	東北運輸局観光部観光企画課長	唐牛 俊明	幹事	○
14	東北運輸局交通政策部交通企画課長	山城 佑太	幹事	○
15	宮城県経済商工観光部参事兼観光政策課長	千坂 守	幹事	○ 代理
16	宮城県企画部地域交通政策課長	山田 憲彦	幹事	○
17	東日本旅客鉄道株式会社東北本部企画総務部経営戦略ユニット企画課長	箸方 稔	幹事	○
18	一般社団法人みやぎ大崎観光公社常務理事兼事務局長	星 義一	幹事	○
19	鳴子温泉郷観光協会事務局長	菊地 英文	幹事	×

4 事務局 まちづくり推進課(陸羽東線利活用推進室)

室長 安藤 豊

主幹兼係長 菅野 麻衣子

主事 佐々木 弥祐

政策課 課長補佐 由利 英樹

観光交流課 (欠席)

5 説明

(1) 陸羽東線利活用促進検討会議について・・・資料1, 資料2, 資料3

6 会議事項

(1) 陸羽東線利活用促進の取り組み状況について・・・資料4

(2) 陸羽東線利用実態等基礎調査の実施について・・・資料5

(3) パーク・アンド・ライド実証事業の実施について・・・資料6, 資料7

7 会議の概要（要点筆記）

1 開 会

- ・事務局が会議を進行。

2 挨拶

・伊藤大崎市長

第1回「大崎市陸羽東線利活用促進検討会議」の開催にあたり、ご挨拶を申し上げます。本日は、利活用促進検討会議にご出席いただきありがとうございます。

連日の酷暑、猛暑で、緊急搬送も記録更新中ということで、この地域でも200人を超えるのではと危惧している。また、最近では重症患者が出ており大変に心配している。気象用語でも気候変動と言われたのが、気候危機の時代と報道されたり、地球温暖化を超えて、地球沸騰化の時代と報道されるように大変に暑い夏に耐えている。気象関係の報道によると、暑さは10月まで持ち越すのではないかとということで異常な状況が続いている。暑過ぎるために、世界農業遺産大崎耕土の農作物にも高温障害や水不足による障害が出始めている。本市は、ラムサール条約登録や世界農業遺産に続いて、昨年はSDGs未来都市の選定を受けた。先人が残してくれた環境、自然、持続可能な生物多様性のまちづくりをぜひ継続していきたいと思っている。そのアクションプランの中にも地球温暖化に向けたそれぞれのプランを作っていくわけだが、その有力なメニューのひとつとして、エネルギー効率に優れていた鉄道の利用を大きな位置付けにしていきたい。

昨年7月にJR東日本の利用の少ないローカル鉄道の経営情報の開示によって、今日の交通機関の基軸でもあるJR陸羽東線もその該当路線として厳しい状況が浮き彫りになっている。これを受けて皆様方の協力をいただき、この現状を市民の皆様と共有するとともに一日も早い陸羽東線の利活用促進に向けて、昨年10月に陸羽東線再構築検討会議を設置して協議検討を進め、本年3月に陸羽東線利活用促進に関する検討報告書を取りまとめることができた。ご協力いただいたご出席の委員の皆様にご改めて感謝申し上げます。検討報告書の内容などを新年度から実践に移すために、市役所の組織機構の中に、陸羽東線利活用推進室を設け、各種取り組みを一つ一つ開始している。後程詳しく説明申し上げますが、代表的なところではトランススイート四季島の今年度の初運行に合わせて、陸羽東線開業110周年の記念セレモニーを鳴子温泉駅前で開催し、利活用促進に向けた市民の機運醸成を図った。また各種会合において陸羽東線の利活用促進を呼びかけた。この会の会長である吉田副市長が、各事業所や学校等を担当事務局と共に呼びかけをし、各団体からも陸羽東線を活用した事業実施の多くのご報告を頂いている。職員を対象とした公共交通通勤デーは、今年度は回数を増やし継続実施している。市主催の各種事業も、陸羽東線沿線を会場にし陸羽東線を活用して参加いただけるような事業展開を行っている。このような状況の中で再構築検討会議としては3年間の目標を掲げて、令和5年度から令和7年度までの三か年で、まず古川一鳴子温泉駅間を一日あたりの平均通過人員1,000人を目指し市民の皆様と一丸となって利用促進に向けた取り組みを進めている。目標達成に向けた取り組みを進める中で、先月7日にJR東日本より令和4年度の平均通過人員が発表され、古川一鳴子温泉間は708人と、前年度655人からは微増という結果であったが、この問題を共有し動き始めたのが昨年度後半なので、その成果の一つで、今年度はさらにこの数が増えていくものと実感している。いよいよ、この数値をスタートに利用

促進計画から、取り組みを実践に移行するにあたり、本会議も利活用促進検討会議と名称を改め、これまではご指導をいただくためオブザーバーとしてご参加いただいていた国・県・JR関係の皆様にも正式に委員として協力いただき、組織強化を図り、一層の連携を図る中で取り組んでまいりたい。事業の実施にあたっては今後、国の支援事業などの活用を大いに検討するとともに、引き続き市民のマイレール意識の醸成を図るとともに、さらに沿線地域の利活用促進に向けた活動を支援しながら、市民と行政が一体となって目標達成を目指し、その取り組みが沿線地域及び鳴子温泉郷の活性化につながるよう期待しながら本日の会議を進めて参りたい。

3 出席者紹介

- ・名簿に基づき事務局より紹介。

4 説明

(1) 陸羽東線利活用促進検討会議について

- ・資料1，資料2，資料3に基づき事務局より説明を行った。
(質問等特になし)

5 会議事項

○吉田会長あいさつ

昨年度の検討会議においては、様々な議論があったが、ポイントとしては、一つ目には危機意識の共有化、二つ目には地域資源の活用や鉄道沿線の盛り上げ、三つ目としては、関係機関の連携、相乗効果を高める議論が進められ、その結果、報告書をまとめるに至った。幸いなことに、様々な団体、企業の皆様から呼応する動きが始まっている。陸羽東線を定期的に活用しようといったような動きも出てきており、この動きが加速するよう、具体的な取組を積み重ねてまいりたいと考えている。

- ・ここから吉田会長を座長とし会議を進行。

(1) 陸羽東線利活用促進の取り組み状況について

- ・資料4に基づき事務局より説明を行った。

(2) 陸羽東線利用実態等基礎調査の実施について

- ・資料5に基づき事務局より説明を行った。

(3) パーク・アンド・ライド実証事業の実施について

- ・資料6，資料7に基づき事務局より説明を行った。

○会議事項(1)(2)(3)について、全会一致で承認。

6 情報交換

○まちづくり推進課

公共交通通勤デーの実施状況の説明

○産業商工課

資料4の陸羽東線利活用促進の取り組みについての具体例の説明

○教育委員会

○小幡東北運輸局鉄道部計画課長

東北運輸局からは資料を2点ほどお配りした。大崎市は各地に先駆けて取り組みを進めていただいているが、宮城県もローカル線の検討会や各路線ごとのワーキングの開催、他県では秋田県が同様の取り組みを進めているところ。東北運輸局はそういった会議に呼んでいただき、色々と話をさせていただく機会がある中で、こういったポイントを意識していただければ、より利活用促進活性化に向けた取り組みに繋がっていただきやすいのではと改めて整理した資料になる。大崎市の取り組みの内容を伺ったが、既に取り組んでいただいているのが大部分になると思うが改めて7点紹介させていただきたい。

小畑委員より資料に基づき説明があった。

○山城東北運輸局交通政策部交通企画課長

地域公共交通に関する支援制度ということで二次交通に特化した関連制度を紹介したい。昨年の議論の経過を勉強させていただき、報告書の中で二次交通の整備が今後の課題として挙がっていた。利用促進に加えて、鉄道そのものが便利な交通ネットワークの一部として機能し、それが実際に乗る地域住民に認識されることが重要であると考えている。そういった観点からも事務局からもアンケート調査、利用実態調査の説明があったが、地域にどういったニーズがあるのかをしっかりと拾い、議論のきっかけにし取り組みに繋がってほしい。今後二次交通の確保の取り組みを進めていただく中で活用可能な主な支援制度を紹介させていただきたい。

山城委員より資料に基づき説明があった。

○宮城県経済商工観光部参事兼観光政策課（代理出席：仲鉢総括課長補佐）

陸羽東線を利用した観光誘客を促進するため、陸羽東線内の県内全16駅と車両内をスタンプポイントとするデジタルスタンプラリーを実施することになったので概要について説明させていただきたい。本事業では、各駅と車両内にQRコードが入ったポスターを掲出し、参加者は各自のスマートフォンでQRコードを読み取ることでスタンプを取得し、取得したスタンプ数に応じ抽選で特産品等の景品があたる仕組みになっている。実施期間は秋は紅葉、冬は温泉と鳴子温泉駅周辺の魅力を満喫できる観光シーズンに合わせて10月から1月の予定としている、本事業は、県で行っているデジタル身分証明書アプリ「ポケットサイン」の実証実験の一つとして位置付けられており、全県民がアプリを使える最初の機会となっている。陸羽東線沿線の観光資源を活用しながら、路線の利用促進につながるようしっかりと取り組んでいきたい。

○山田宮城県企画部参事兼地域交通政策課長

大崎市の資料4の2ページにある宮城県ローカル線活性化検討会議ワーキングチームの現在の状況について説明させていただきたい。

宮城県ローカル線活性化検討会議については昨年度3月末に立ち上げ、5月以降、陸羽東線を含む石巻線、気仙沼線について、宮城県が事務局となり各3回ワーキングチームで議論を進めてきた。その中で、それぞれの路線の課題を共有し、課題に対応するため、今後の方向性について議論をさせていただいた。現在は、来週に予定している本体会議への報告に向けて最終的な取りまとめをしているところ。その中で、先行して

取り組みを進めている大崎市の事例について皆さん関心をもって見ておられる。それに刺激され各路線にも良い効果があると思っている。先程の運輸局の資料にもあったように、広域的な連携を含めたことが非常に大事という点がある。今後もそれらの視点を踏まえながら検討させていただきたい。

○箸方 J R 東日本東北本部企画総務部経営戦略ユニット企画課長

大崎市で昨年まとめられた報告書の中身を実現できるよう連携できればと思っているので、引き続き協力しながら検討を進めたいと思っている。昨年、線区別の収支を開示しているが、そのなかでは利用促進と合わせて経費削減も検討を進めていきたい。利用状況に合わせた運行体系の簡素化について地元の皆様と連携して進めていきたい。

○星一般社団法人みやぎ大崎観光公社常務理事兼事務局長

運輸局から提示いただいた鉄道利用促進にむけた心得が7項目あるが、関連して情報共有させていただきたい。武蔵野大学のフィールドスタディツアーを昨年9月に実施し40名程に参加いただいた。今年は2週間にわたり3泊4日のツアーを9月に受け入れることにしている。持続可能な環境を意識した旅行を学生たちに学んでいただくことが趣旨。大崎エリア、陸羽東線沿線エリアはまさにその宝庫だと感じている。大学側から提案いただいているのは、二次交通に関わるバスをBDFで走らせてほしいということ。昨年1泊は鳴子温泉の旅館に宿泊したが、今年は学童農園に3泊してもらおう。行き帰りを図書館から学童農園まで学童農園のバスを利用させていただく。その部分でBDFを使ったバスを体感していただき希望に応えたいと思っている。大崎市生涯学習課の方には、試験的にバスにBDFを使えないかという話をしている。JRにも話をさせていただき検討していただいている。鉄道だけでなく二次交通に関わる部分にも環境を意識した取り組みを体感いただくことは大切なこと。日本人だけでなく外国人も持続可能な地域を旅行したいという意識も高まっているので、世界農業遺産大崎耕土エリアはまさに持続可能な旅行を体験できるので、そういった点を意識して取り組んでいければよい。それに向けた情報発信をしていきたい。

7 その他

・事務局から陸羽東線沿線のイベント情報（「こけしまつり」、「政宗公まつり」）に関する情報提供及び次回以降の会議開催スケジュールについて案内

第2回：11月下旬

第3回：1月下旬

○伊藤市長

先程、事務局からこの大崎市の様々な取り組みをマスコミや各情報機関が関心を持って取り上げていただいているという紹介があったが、この庁舎完成の時に河北新報社様が新庁舎落成の特集を組むのと同時に、併せて陸羽東線の特集を組んでいただいた。仙台の大人の情報誌りらく6月号で陸羽東線の特集を10ページ組んでいただいた。陸羽東線沿線で活躍されている人物紹介で星常務が紹介されている。

沿線の取り組みで安定的な顧客増の一環として、公設公営で日本語学校の準備を進めている。陸羽東線沿線で廃校のある地域に日本語学校を誘致を募集したところ、4地域から応募があり、西古川に決定した。全国で2例目。1例目は北海道の東川町。運営の助成があまりないので、運営の経費、海外からの募集、教員の確保など大崎市だけで

は難しいことについて県知事と覚書を結んだ。県内では石巻市が関心を持ち準備を始めている。県内としては大崎市と石巻市をモデル校としていきたい。再来年の4月開校に向けて、教員の確保や校舎の改修に着手している。その取り組みと併せて、西古川駅を利用してもらう。古川駅周辺の公共用地を活用して民間で寮をつくっていただき、毎日陸羽東線で通学してもらう想定。古川駅周辺に寮があることで、アルバイトを含め地域の活性化に貢献してもらう。学生の支援策として、陸羽東線の定期券を無料にするか割引にするか、皆さんに利用してもらう想定でいる。西古川駅は既に無人駅となっているので、海外からくる方は当面50名、将来的に150人ということで、不安を抱く外国人のサポート的な駅になってほしい。地元有人化や相談コーナーやサロンのような場所となるよう、駅の改修をJR様と今後相談したいと思っている。社総交をぜひ使いたいと思っている。活用方法の良い実例を紹介いただければと思う。

○JR東日本東北本部 箸方企画課長

資料の利用実態調査の関係で、JR東日本と協議のうえ協力連携して実施すると記載があるが列車内での調査になると思うので、詳細について調整させていただきたい。細かいところで、2両編成となっているが1両もあるので、そういったところを調整させていただきたい。

8 閉 会

○閉会の挨拶（目黒副会長）

議事の中で利用実態調査を進めていくという承認をいただいたので、補助の申請をさせていただいて、調査をしっかりとやらせていただきたい。実態を踏まえて次の展開ということの基礎材料にさせていただきたいので引き続きご指導をいただければと思う。其々の取り組みが報告書に基づいて立ち上がってきているところなので、磨き上げをしっかりとやっていきたいと思う。また、連携して相乗効果を生ませるためにはどうしたらいいかをしっかり考えていくことが今後のテーマにもなってくると思うので、皆様のご協力を引き続きよろしくをお願いしたい。

以 上